
雨降って、

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨降つて、

【Zコード】

Z3497M

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

日本には季節がある。
夏は暑いし、冬は寒い。
その中で梅雨つて奴がある。
雨がいっぱい降つて楽しくねえんだ、これが。

日本には季節がある。

夏は暑いし、冬は寒い。

その中で梅雨つて奴がある。

雨がいっぱい降つて楽しくねえんだ、これが。

靴ん中はぐしょぐしょになるし、気持ち悪いつたらない。いつもカバンさえ持つのがおっこうな俺は当然傘を差すのも嫌いだ。めんどくせえんだよな、うん。

だから、雨の日は出来るだけ家から一歩も出たくない。

家でゴロゴロ。

これが定番だ。

まあ、たまにはいいだろ。

え？

たまにじゃないって？

それは・・・気のせいだ。

そう言う事にしておこいつ。

そう言う訳で、昨日のデートはキャンセル。連絡遅れたのは、寝てたからだ。

何せ、俺は成長期だからな。

何時まで成長期かというと、人間死ぬまで成長しなきゃいかんと偉い人が言っていたから死ぬまでだ。

確かその偉い人の名は・・・よう知らん。

何せ偉い人だ。

そんなこんなでお前も一つ学んだと思う。

俺は雨の日は外出しない。

そう言う設定だ。

デフォルトなので仕方ない。

許せ。

けど、雨が止んだら、会いに行こうと思ひ。
止んだらな。

まあ、だから突然の訪問でも許してくれよな。

私はメールを読み終え、玄関のチャイムが鳴った。

「よお」

悪びれなく佇む彼がそこにいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3497m/>

雨降って、

2010年10月9日19時54分発行